



—ものづくり体験—

山陽中学校区に隣接する市之郷には兵庫県立ものづくり大学校があります。その大学校にある「ものづくり体験館」では、中学生を対象にした“ものづくり体験学習”を実施しています。「ものづくり体験館」は、将来の進路を考える上で未知の可能性を秘めた中学生に対し、本県産業の礎(いしづえ)となるものづくりへの関心を持ってもらい、職業としてのものづくりの魅力を知ってもらうために本格的なものづくり体験ができる施設です。本校の1年生は1月26日(金)と29日(月)に前後半の学級が2日間に分かれて、この“ものづくり体験学習”に参加することができました。

普段の学校生活とは異なった環境で、“兵庫の匠(たくみ)”と呼ばれているプロの技術者から直接、手ほどきを受け、生徒はいきいきと作業していました。各自が選択したコースで、ものづくりの楽しさや難しさを感じながら、それぞれの作品に込められた製作者の思いや苦労を体感できていれば幸いです。そして、他者が作ってくれたもののおかげで私たちの快適な生活が成り立っている事実に向け、感謝しながら日々の生活を送ってほしい、と願います。

詩人のまど みちおさんの作品のなかで、『朝がくると』という詩があります。

『朝がくると』(まど みちお作)

朝がくると とび起きて

ぼくが作ったものでもない 水道で顔をあらうと

ぼくが作ったものでもない 洋服をきて

ぼくが作ったものでもない ごはんをむしゃむしゃたべる

それから ぼくが作ったものでもない 本やノートを

ぼくが作ったものでもない ランドセルにつめて 背中にしょって

さて ぼくが作ったものでもない 靴をはくと

たったか たったか でかけていく

ぼくが作ったものでもない 道路を

ぼくが作ったものでもない 学校へと

ああ なんのために

いまに おとなになったら ぼくだって ぼくだって

なにかを 作ることが できるように なるために

この詩は、「なぜ、私たちは勉強する必要があるのか」と、よく生徒から尋ねられた質問に対するヒントが、子どもの言葉を借りてうまく表現されています。本校生がどのような大人になって、どのように社会貢献をしてくれるか楽しみです。

今、3年生は面接練習をしたり、受験勉強をしたりと自身の進路に向けて努力を積み重ねています。どうか山陽中学校を卒業しても、引き続き勉学に励みながら知性を高めてください。そして、さまざまな体験を通して、しっかりと感性も育みながら立派な社会人になってほしい、と願います。

結びにあたり今回の“ものづくり体験学習”でたいへんお世話になったものづくり大学校の講師先生や職員の皆様にご心より感謝申し上げます。どのコースにおいても、できる限り少人数での指導が受けられるよう、複数の講師先生を割り当ててくださり、愛情を込めて手厚く教えていただきました。そのようすを拝見し、胸が熱くなりました。有難うございました。

また、行事の日程調整がつかずに一度は実施を断念した“ものづくり体験学習”でしたが、ある保護者の方から、「この地域に立派な施設があるので、是非、ものづくり体験をさせてやってほしい」とのご意見を頂きました。申込をキャンセルした後でしたが、ものづくり大学校職員の方が、再度の実施に向けて日程調整をしていただき、今回の“ものづくり体験学習”が実施の運びとなったことを申し添えます。

おかげさまで生徒の心に残る体験活動が、無事に終了できたことをご報告し、心より感謝の意を表します。有難うございました。